

令和元年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評

【総 評】

大阪府温暖化の防止等に関する条例ならびに大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物のうち、本賞に応募のあったものについて、環境配慮を目的とした建築的計画・工夫における独創性・先進性、調和性・統合性、取組姿勢・効果などについて総合的に審査し、各賞に相応しい建築物を選考した。

言うまでもなく、環境配慮とは、単に高効率で省エネルギー性に優れた設備機器を導入することではなく、敷地内の外構計画も含めて、建築的工夫と設備的工夫の統合により、エネルギーの使用を抑制し、快適で健康的な室内環境と、都市環境や地球環境への負荷削減を両立させることを意味する。

大阪府市における新築建築物のCASBEEの高評価ランク（SやA）の件数自身が減少していることを背景として、候補物件の数は年々減少しているものの、今年に関しては、府市ともにレベルはいずれも高く、多くの優れた環境建築物を表彰することができたと考えられる。

用途区分では、事務所が5件、病院が2件、集合住宅が2件、工場、集会所がそれぞれ1件受賞したが、惜しくも受賞を逃した建築物も、優れた取組みがなされており、環境配慮への積極的取組みの努力に敬意を表す。

各建築物の具体的な取組みや工夫についてはそれぞれの賞の講評に譲るが、今年は事務所や病院において大規模建築物が多く、大規模ならではの様々な先進的取組みが多く見られた。周辺環境への配慮に関しては、生物多様性への貢献や、環境性と意匠性を高次にバランスさせた建築計画などが見られ、新しい環境建築のあり方が示されたと言える。

今後も、環境性から新しい建築物の価値が創造され、環境にやさしい建築物がより多く建築されることを切に願うものである。

【大阪府知事賞】

国立循環器病研究センター（吹田市）

JR京都線岸辺駅に直結する「北大阪健康医療都市」に位置する医療クラスターの中核施設であり、最先端医療拠点および研究施設としての設備とそれを支える大規模複合建築であるが、環境性能においても業界をリードする多次元高機能施設であると言える。熱負荷的には不利となる南北を軸とする建築でありながら、高性能の外皮や高効率設備機器の採用、自然エネルギーの有効利用等により、高いBEE値を実現している。高度な医療と先端的な研究機能のBCP対策、テクニカルバルコニー・ボイドによる高いメンテナンス性・可変性など、様々な工夫が導入され、まちかど広場や周辺緑地、保水性舗装など、地域の環境向上とまちづくりにも配慮された質の高い環境建築である。まさしく大阪府知事賞に相応しい建築である。

【大阪市長賞】

読売テレビ新社屋（大阪市中央区）

24時間稼働体制をとるテレビ局本社ビルであり、大規模なスタジオを有するなどエネルギー消費の大きい建物用途であるが、熱負荷用途に合わせた冷水の2温度送水による熱源の効率化や、大空間スタジオにおける利用形態（準備時と収録時）に対応した可変空調システム、ハニカム型の日射遮蔽ルーバー等の採用など、積極的に新しい技術開発に取り組み、高い省エネ性能の向上を実現している。

また、建築計画において、上層階と下層階に角度を付けてみることにより、周囲との調和と意匠性を高めるとともに屋上庭園空間を創出し、大阪城を中心とする景観に新たなランドマークを生み出している。

建築主及び設計者の環境負荷を抑えた建物にすることへの積極的な姿勢とともに、地域の賑わいづくりに貢献するという意欲が感じられる優れた環境配慮建築物であり、大阪市長賞に相応しいと判断した。

【住宅部門賞】
(50音順)

グランドメゾン新梅田タワー（大阪市北区）

次世代家庭用燃料電池の全戸設置は、エネルギーの利用効率を高め、環境負荷を低減するために積極的に利用した例として、高く評価できる。

また、住戸内のテレビでエネルギー使用状況を確認できるシステムを導入し、省エネのためのライフスタイルのアドバイスも行うなど、先導的な省エネに関する取組みを行っている。

外壁の一部に緑化を施し、また、隣接するホールと調和のとれた外壁色とするとともに、外構における緑の連続性など、周辺環境への配慮が感じられる。

入居者のランニングコスト削減と環境配慮の両立を実現しており、住宅建設事業として環境配慮を成立させるモデルの一つを示している。

ザ・パークハウス オイコス 三国ヶ丘（堺市）

本建築の最大の特徴は、周辺環境との調和性や景観に配慮した周辺緑地と、敷地内に設けられた自主管理公園の緑や鳥類を呼び込む巣箱により、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会のいきもの共生事業所®認証（通称：ABINC認証）を獲得している点にある。堺市内の集合住宅で初の家庭用燃料電池全住戸によるCO₂の削減も先進的である。また、低炭素建築物の認定を取得し、高いBEE値を実現した良質な環境配慮住宅と言える。

【事務所部門賞】
(50音順)

近畿産業信用組合本店（大阪市中央区）

外装を重厚感のある石張りをガラススキンが覆う美しいダブルスキンとすることで、断熱性の向上と

ともに意匠性も高めており、環境配慮と北浜の街並みへの景観調和の両立が図られている。

また、冬期においてダブルスキン内の熱を建物内の暖房用に利用する仕組みの構築や、太陽追尾型電動ブラインド・潜顕分離空調などセンサー技術を駆使した制御による先進的な空調システム、執務室内の人検知センサーによる照明最適制御などが導入されている。

18階建ての事務所建築でZEB Readyを達成したことや、建築主のZEB LEADING OWNERへの登録など、積極的なZEBへの取り組みは高く評価される。

栗原工業ビル（大阪市北区）

独自開発のスマートエネルギーマネジメントシステム（SEMS）や、ベース照明への直流給電、空気式放射パネルとパーソナル吹出口を合わせたタスク・アンビエント放射空調など、新たな技術を積極的に採用している。特にSEMSは、通常時は蓄電池に蓄えた電力をベース照明に直流のまま給電することで直流・交流変換時の電力ロスを減らし、災害時には電気自動車から建物に給電するなど多種電源によるBCP対応を可能にしている。

電気設備会社の本社ビルとして、災害時も機能を保ち、他の被災した建物等の復旧拠点となることを重視して設計されており、BCP対応と通常時の環境配慮が合致した建物である。

DESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX（茨木市）

立地を活かした美しい造形の研究施設である。意匠性を犠牲にすることなく、高い省エネルギー性と快適性をバランスさせている点が高く評価される。敷地の3方向が緑豊かな丘陵地で、対向する大窓により執務室内から周辺の緑環境を享受でき、かつ高い環境性能を保ちつつ自然光を上手くとりいれている。スポーツウエアデザインの研究拠点という機能を満足させるための床吹出し空調や、自然換気などに最新の気流制御技術を導入している点も評価できる。

なんばスカイオ（大阪市中央区）

隣接する建物から余剰熱の供給を受けることにより街区全体としてのエネルギー効率を高めるとともに、ハイブリッド非常電源による72時間以上の機能維持を可能とし、災害時の帰宅困難者にも対応できる点は、ターミナル駅に隣接する立地特性を踏まえた取り組みとして評価できる。

また、冷房時のオフィスにおいて天井内の非空調の空気を床から吹き出すことで足下の冷えを緩和する手法や、屋内避難階段を明るく緩やかにし、セキュリティカードに活動量計を複合したシステムと併せて、オフィスワーカーに運動を促進する手法など、他に例を見ない創意工夫がなされており、先進的なオフィス複合ビルとなっている。

【商業施設 その他部門賞】 (50音順)

安満遺跡公園 パークセンター（高槻市）

建物正面の大屋根下の空間に集う市民の姿が印象的な平屋鉄骨造の公園施設である。大屋根と庇が作る日影を吹き抜ける自然風が周辺の緑と調和するとき、美しい景観と環境指向の建築が大きな価値を持つことになる。外観は様々な環境配慮技術と人間工学に基づくデザイン検討により木質でシンプルで力強く美しく、屋内は地産の木材を用いたルーバーやサインなどディテールまで丁寧につくり込まれ、広大な公園のパークセンターにふさわしい佇まいと親しみやすさも有する公共建築である。

GLP 枚方Ⅲ（枚方市）

物流拠点としての信頼性を高める耐震性能（免震装置）や耐久性、断熱性に対する工夫（高断熱サンドイッチパネル等）、大屋根を活かした太陽光発電だけでなく、ランニングコスト削減（大型ファン等）や周辺地域景観への配慮（トラックランプ遮光ルーバー、室外機配置、歩道リフレッシュスポット等）など、設計者とクライアントのノウハウや蓄積が随所にみられる。ドライバーへの配慮まで気配りされた設計が印象的であり、先進的な配慮がなされている。

市立吹田市民病院（吹田市）

給気口を「風の塔」としてモニュメント化し、中規模の病院建築でありながら、大規模クールヒートトレンチによる井水・地中熱活用を取り入れた環境建築である。加えて、設備専用中間階（ISS階）を設けるなど、メンテナンスのしやすさや将来の機器更新も容易にしている。落ち着いた外観、健康広場、まちかど広場、フェンス緑化など街への配慮や、防災拠点としての配慮もなされている高機能で良質な病院建築として高く評価できる。

令和元年度大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会 及び 令和元年度大阪市建築物環境配慮推進委員会 委員名簿 (50音順)

○印は、大阪府委員であり、大阪市委員も兼任

- 阿部 昌樹・大阪市立大学大学院法学研究科 教授
- 永村 一雄・大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授
- 木多 彩子・摂南大学理工学部建築学科 教授
- 鍋島美奈子・大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻（環境創生領域） 教授
- 山中 俊夫・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻（建築工学部門） 教授（委員長）